

「教養教育としてのカフェ」研究： カフェ・ネットワークの構築とその意義

プロジェクト長：三角明子 プロジェクトメンバー：植木献、上野寛子、猪瀬浩平

猪瀬企画

1) 屋台づくりワークショップ

昨年度の本プロジェクトで開催した鳥取大学屋台部講演+ワークショップに参加した学生有志が中心になり、5月4日に屋台制作のワークショップを実施した。つくられた屋台は、有志学生がつくった明学屋台部によって、学内外様々な場所で活動している。本学教員や戸塚地域住民、卒業生と連携しながら、戸塚まつりでの焼きおにぎり屋台の出店（高知県須崎市で醤油屋を営む卒業生が醤油を提供）、戸塚善了寺のサマーキャンプでのワークショップ実施、日本ボランティア学会への参加、キャンパス・ピクニックなど多方面で活躍し、大学内外に新しいコミュニティをつくりだす〈メディア〉としての屋台の可能性を日々開発している。

2) 郡上おどりin戸塚（会場 横浜キャンパス&善了寺）

今年も戸塚まつりにおいて、郡上おどりを通じたトークライブとワークショップ、そして踊りの実演を行った。郡上の若手御囃子グループ「郡上舞紫」のメンバー10名をゲストとして招き、大学キャンパスでは学生による郡上おどり紹介から、ゲストを交えた郡上おどりの歴史的・文化的背景に迫るトークライブと踊り体験を行った。郡上おどりの歌詞を自作し、お囃子で実演するワークショップを行った。その後、矢部町の善了寺に移動し、郡上おどりの実演を行った。あいにくの雨で本堂での開催となったが、50人以上の方の参加が見られた。

今年度の特色は、共通科目「ボランティア実習」や、国際学部の「インターンシップ」などの授業を通じて、郡上八幡との関係を深めた学生が、プログラムを企画した点にあり、報告会や研究発表とは別の形で、授業の成果を表現する方法の探求を行った。

4年目の開催となり、地域の方も戸塚の郡上おどりを初夏の恒例行事として楽しみにしている。踊りを通じた、地域連携が生まれている。講師謝礼40,000円、講師宿泊20,000円。

植木企画

食を媒介とした自由な対話やコミュニティ形成を課題とし、学生課、横浜図書館、健康支援センターなどと協力、「朝カフェ」(5月22日)、「ひとりぐらしのための料理教室」(5月28日および12月17日)を実施した。

1) 「朝カフェ」は参加者15名で、朝刊を読み比べ、気になる記事についてディスカッションを行った。1限前に朝食を一緒に食べ、その場で与えられた課題を整理して自分の意見を伝える知的ウォーミングアップで始まる一日の充実感を味わってもらうためにも定期開催を目指したい。

2) 5月の「料理教室」は14名の参加があり、親子丼を作った。ひとり暮らしを始めた学生を対象に、食事作りの技術習得と共に、近所に住む仲間としての繋がりを築くことが目的である。同時に化学の視点からのミニレクチャーを実施することで、調理の原理や合理性も身につけてもらう意図がある。実施後、参加者同士の連絡先交換などの姿が見られ、食を通じたネットワーク形成に一定の役

割を果たせたことを確認した。

12月の「料理教室」には16名の参加があり、学内で採れた大根を使った料理を行った。メインの料理はおでんで、今日のおでんが成立するまでの歴史を簡単に辿るミニレクチャーも行った。また、大根の皮や葉っぱを使った料理も作り、全部を使い切る伝統の知恵についても体験した。屋台部の学生たちの協力により、屋台でのおでんも楽しむことができた。

上野企画

1) 学生活性型カフェ第1弾「アート・ワークショップvol.1：自分創作工房」(7月7日)を2号館3階生物学学生実験室にて実施

自分の内面を見つめることは大変重要だが、このワークショップでは自分の体のパーツを創作することを通して、客観的に「自分」をみつめ、感じ、考えていくことを目的とした。粘土細工の作家から直接指導を受けながら、指(初級者)、瞳(中級者)、口(上級者)といった3つのパーツを3時間程度で完成させた。12名の学生が参加したが、創作後の作品鑑賞会では学生どうしが互いに交流し合い大変和やかな雰囲気となった。(レジックス粘土やボンド等の消耗品29,600円、講師謝礼22,274円：交通費込み)

2) 学生活性型カフェ第2弾「性を語る大人カフェ」(11月30日)を2号館3階生物学学生実験室にて実施

産婦人科医師の早乙女智子氏による解説の後、学生たちの性に関するさまざまな悩みに対し、1つ1つ丁寧に回答していくというキャッチボール形式により理解が深められた。学生たちからはこのような場を定期的に開いてほしいと切なる要望が出た。(講師謝礼33,411円：交通費込み)

3) 学生活性型カフェ第3弾「アート・ワークショップvol.2：クリスマスにいかが？オリジナルギフト創作工房」(12月22日)を2号館3階生物学学生実験室にて実施

この1年間の自分へのご褒美、あるいは、大切な人のことを思い浮かべながら心のこもる手作りギフト「X'masターキーストラップ」を創作した。創作指導は1)と同じ、ミニチュアフードから古代生物まで「リアル×芸術」を探究する相澤美和氏にお願いした。クリスマスソングをBGMに、楽しくかつ真剣に粘土細工に取り組み、本物そっくりの美味しそうなX'masターキーを創りあげた。(講師謝礼27,842円：交通費込み)

13名の参加者は、自分創作工房(7月7日)の参加者とは異なったが、どちらのアート・ワークショップ企画においても、学生たちからまた開いてほしいと強い要望が出た。創作に夢中になることで好奇心や集中力が引き出され、出来上がった作品をみんなで鑑賞することでセンスの多様性を認識し、作品を通して自然な対話が可能になる。日頃、接触のない学生どうしがつながるこうした機会は貴重であると感じた。

三角企画

・「自分の〈強み〉を考えよう」

春季休暇中に本学学生および一般を対象としたワークショップを開催予定。

本学学生にはあらかじめバッキング他（田口俊樹訳）『さあ、才能（じぶん）に目覚めようーあなたの5つの強みを見だし、活かす』を配布する。この書籍に付属するストレンクス・ファイnderテストのアクセスキーを利用してウェブサイトで分析を受けたうえでワークショップに参加、自分の〈強み〉について考え語り合う機会をもつ。

一般参加者を受け入れることにより、〈強み〉とこれからの生き方、職業選択などの関連についての話しあいに厚みが出るのが期待される。

予定される経費：外部講師謝礼25000円（交通費込み）・テキスト代35000円（20冊分）。